

締結式には、（株）同立有志会ホールディングスから中村代表取締役と従業員２人、北川市長、永岡議長、地域の皆さんが出席しました。

旧長瀬小が、新たな教育拠点に！

「旧長瀬小学校施設利活用事業」事業者と協定を締結（8/27）

市は８月27日、旧長瀬小学校の利活用について、選定事業者である「（株）同立有志会ホールディングス」（奈良県大和郡山市）と基本協定を締結しました。

同社は、校舎内に多様性と国際性を重視した小中学生向けのインターナショナルスクールと、高校生向けの技能教育校を設け、令和９年４月の開校に向け準備を進めています。初年度は生徒数約30人でスタートし、市内からの入学希望者を優先して受け入れる予定です。

「地域全体をキャンパスにして子どもたちの未来を明るくしたい。市の人口増加のきっかけになれば」と同立有志会の中村尊裕さん。企業が持つＡＩ技術に触れる機会や、地域の問題を学ぶ体験型の学習も予定されています。

観光データの分析や戦略立案を支援

地域活性化起業人として観光に精通した川口さんを委嘱（10/1）

市は、総務省の制度を活用し、デジタルマーケティング支援などに取り組む「（株）デイアライブ」の川口政樹さんを、「地域活性化起業人（副業型）」として10月1日付で委嘱しました。

川口さんはこれまで、自治体（三重県職員）、DMO（地域観光の司令塔となる法人）、民間コンサルティング会社の３つの立場で、観光地域づくりや、観光人材の育成などに携わってきました。今後これらの経験を生かし、観光データの分析や戦略の立案、市観光協会のDMO登録などに向けて、地域の観光事業が盛り上がるよう取り組んでいただきます。



川口さんは「DXの活用やAI検索を意識して、観光客に名張市内を巡ってもらえるような効果的なPRに取り組む」と抱負を語りました。



チーム名は「チーム当直明けの本気」。チーム名にちなみ、「T」を表すポーズでハイッチーズ！

息ぴったりの連携で優勝！

第９回MIELS（三重県救急救命標準化教育統合コース）（10/3）

災害医療の技術を競った県の大会「第９回MIELS」で、市立病院と市消防本部の合同チームが第１回以来となる優勝を果たしました。13組が出場する中で優勝できた理由は、日頃から培ってきた病院と消防の強固な連携体制。医師・看護師・救急救命士の６人が、災害現場を想定したシミュレーションで、迅速なトリアージや息ぴったりの救護処置を展開し、最高評価を獲得しました。

リーダーの福地翔さん（救急救命士）は「救命率向上には医療機関との円滑な連携が不可欠。これからも市民の皆さんが安心して頼れる病院・消防を守っていきたいですね」と笑顔を見せました。